

フランス国籍居留者総計唯三名の

田舎県からの役たたずな便り

稲賀 繁美

日本語と断片的英語による情報網の中に閉塞した日本では、
どうやら日本でしか通用しない妙な慣習が跋扈しているよう
で、気になっている。 regard しかり language しかり。だがどう
やらそんなことをあまり深刻に考えると日本ではまともな人
間とは見なされなれないらしい。忿懣やるかたなく爆発するた
びに、かえってあたりに大迷惑をかけて「人間失格」に陥るば
かり。例えばこうだ。「日本の孤立／学長が警鐘」と朝日新聞
の三月二八日にある。地方にいとこれしか日本国内の情報
源はないので、それに沿って以下妄想を逞しくする。吉川学
長は「日本の市場開放を求める米国の訴えや欧米での日本製
品輸入制限などに触れ、『日本が国の存在として孤立してい
くという、好ましからざる状況を生み出している』と指摘。『こ
れからは、あなたたちが日本の立場や考えを世界へ向けて語
ることが求められている』と述べた」のだそう。江崎筑波
大学学長の談話の一部も載っていたが、元来日本対世界とい

う図式に乗った自己主張推奨は筋違いだろうに。

一日前の日曜版。「今の団塊の世代が、学生のころには三無
主義（無責任、無関心、無感動）という言葉が幅を効かせて
いたが、ちょうどその団塊の世代が、事実上日本を動かす今
の時代は、世の中のムード全体に、三無主義が根付いている
ような気がする。三無主義自体は、当時の学生運動の中にあ
って、世の中に対するアンチテーゼのようなものであったけ
れど、今はびこる三無主義は、何か冷たい、非人間的な感じ
がする。人と人が関わろうとせず、人の生活に無感動で、人
の社会に対して無責任というような事柄や言葉を、どの世代
の人たちからも、ありふれた話題として聞くことが出来る」（前
田日明）。戦後のワン・サイクルで自滅のプログラムが見事完
成したのだ。心底喝采したい。

三月一〇日の「テレビは相手国をどう伝えているか」なる
コラムに、「NHKの高島肇久解説委員長の言」として、『テ

レビは本質的にドメスティック（国内的）なもの。固有の文化や思考法にひきずられる。日米のテレビが相手国が満足するような報道をすることは、将来もありえないだろう」という見解を示した」とある。それに対して筑紫哲也TBSキャスターは「『だからニュースはドメスティックな感覚でいい』と増幅していく体質が日本のメディアでありはしないか」と警戒感を示した」のだそう。U.S.A.だって国際報道の九割を牛耳りながら、「普遍」の実態はひたすらNew York中心のdomesticではないのか。

二七日。「国際報道充実へ論議」とあって、「日本の海外依存度が高まらず高まり、中小企業も海外に進出する時代だけに、もっと『国際ニュースを』増やすべきだ」、「日本人の国際性や国際感覚を高めるためにも、国際報道をもっと重視すべきだ」、「外国の高級紙と比べてまだ少ない」などの意見がでた」そう。ヤレヤレ。中小企業は自分の地盤が「スピン・アウト」したからやむなくアジアに出掛けている。…「も」は意味不明。「国際」とおっしゃる「感覚」が欧米中心主義なのは、アジアからの出稼ぎの人々の存在にもかかわらず日本人以外は日本の新聞を読むはずがないと思っっている独善の国際感覚欠如にも歴然。

『普通の日本人が国際的な目を持つための教育的な材料になることを期待』だとか、「外国との間に広く存在する認識のずれをいかに埋めるかが問題」とか「情緒的、過熱的な報道は避けたい」とかといった「要望」があるそう。JR東京駅ですら外国の「高級紙」入手も困難でまじわんや一旦

反応から生じるのが、これまた紋切型ですが、一方では世界中でとにかく日本国内にしか通用しない無能力に安住する姿勢。他方ではそれが円の強さと結び付いた傍若無人。両方とも必ずしも好きな論法ではないけれど、同じメディアから引用します。前者は二六日の佐藤綾子氏のコラムから。「先日私の小さな事務所の求人広告が雑誌に載ったら、なんと一六五人の若い女性たちの応募があった。履歴書を吟味した上で、五十人と面接して実にショックを受けた。この中途半端は何なのか！英文文はまるでだめ。それは日本人なのだから、と百歩譲ってもまだおかし。日本語の作文も誤字だらけだ。／＼できると書いてあったワープロを打たせると、デンデン虫のように遅い。PKOも知らず、ソマリアはインドにあるという。でんでん虫には失礼な話で、この人ご自慢の対人距離感覚には意見もあるし、そこにおめおめと求人広告を見て詰め掛けの大卒女性にも首をひねるが、まあそんなこと言っても無駄なことだろう。確認すべきは、こうした日常的風景をいまままで放置していたのが自分たちの責任であることにも無頓着なまま碌を食ってきた、この国の大学教師と呼ばれる人種の無責任であろう。できれば大学の「教授」みたいにそれこそ世間から白眼視され差別されまくってる商売はすぐにも廃業して「美しき女庭師」になれば本望だが。たしかミッシェル・セールも言っていた。本一冊書くより庭をひとつ造りたいものだ、と。そのほうがはるかに世の為でしょうに。ただし今みたい年度末の予算消化のためにキャンパス中の樹木をめちゃくちゃに切り刻んで枯らしてしまうことを強いら

地方に参ればそんなものどこにも存在しない情報鎖国。『ずれ』そのものの存在すら知らない「一般国民」にまず「ずれ」というか、日本国内で流通している情報がいかに都合よく検閲され毒気を抜かれ、「情緒」を刺激しないかぎり伝達さえされずに抹殺されるか、その実態を知らしめるのがメディアの役割ではないかしら。とはいえ『北朝鮮の記事については危機感をもった方がいいのか、持たないほうが良いのかわからない』のだそうで、それこそブレンド米よろしく、手とり足とり、日本国内で消費されるべき物資・情報に関してはまるで過保護のお母さんがいちいち子供に提供してよいものとするではないものを分別するがごときおせっかいは官庁主導でやらないことには心配で心配でたまらない一億総幼児国。外国の報道を直接傍受することを事実上極度に困難にする文化的・立法的障壁があるとは、東南アジアや中国のスター・テレヴィ、それに韓国への情報の国境突破の実態を前にしても、まことに牧歌的風景です。吹き替えは、それを求める視聴者に提供するのには当然でしょうが、生の意味不明の声を抹殺し吹き替えを再編集してしか日本領土内では報道すまいとする純潔主義は、視聴者へのご機嫌取りを口実とする良識の仮面を被った、公然たる外国語（人）排斥運動にあらずや。

『日本の学校ではアジアの問題を含め現代史をほとんど教えない』。しかたないから、大学の教養課程でそうした講義を試みますが、学生さんたちの反応は「自分たちには関係ない」（でなければ本当にアジアに出掛けてしまっただけで帰ってこなくなり、退学となって親御さんから泣きつかれる）。そうした

れる商売のことではありません。誤解なきよう。聞くところでは「庭師」も使用禁止用語とのことで、過日検閲の榮に浴しました。

翌日二七日の「天声人語」。例の飛行機のなかで傍若無人な振る舞いを続ける日本人中年女性客の話だ。前の席に座った日本語を話すオニイサンが見慣れぬ書類を埋めはじめるや恐慌をきたして、ステュワーデスに「同じ」書類を要求するオバサンたち。乗務員が「不要」と答えて押し問答するうちに問題のカレが外国人と分かって安心するや、今度は日本語しゃべってたけど韓国人かしらと羨しい。何が恐ろしいか。第一に「何でも皆と同じ」でないと不安な馬騒動症候群。第二にその裏返しとしての「皆」以外のガイジンへの無理解とかば無意識的な差別。第三には外国は彼女らの買い漁りの対象でしかない…人的交流不能の島国体質。そして…第四に一番大切なことがまだ残っているはずですが、それは何か——という問いを新学期の「比較文化」聴講学生への最初の課題にしよう。フランス科の学生諸君にもこれが宿題。蛇足だが少なくとも卒業までに最低英語とフランス語については運用能力をつけ、第四の問題が頭で解けるだけでなく体得できる社会人になって欲しい。そんな要望を某所で開陳したら、日本でフランス語の社会的需要なぞ皆無なのに馬鹿かと論じられた。だがまず改造すべきは、日本という殻に閉じこもってその外に広がる潜在的な需要にも無感覚な自閉的態度だろう。